

麻生 与惣右衛門

麻生与惣右衛門は、湯沢市三梨町京政地区の人です。与惣右衛門は、若いころ、三梨地区西部の水に苦しむ人々を救おうとして用水路を作ることの思い立ちました。

今からおよそ350年ほど前のことです。

与惣右衛門は、上久保の蛇ノ崎橋の丘に「はりつけ柱」を立て、死をかくごで用水路づくりにとりかかりました。

皆瀬川からの水の取り入れ口は、朝月山のふもとに決めましたが、その先は、土地がでこぼこで、水路を決めるのに大変苦労しました。

中でも、蛇ノ崎の丘の大きな岩は、トンネルをほらなければ水を通すことができません。

「たがね」と「げんのう」で、岩を少しずつ打ちくだき、やっとのことで岩をくりぬき、ついに水を通すことに成功しました。

この用水路は「与惣右衛門ぜき」といって、今も、三梨地区の水田をうるおす大切な用水路です。